

**【一貫性のある英語教育】**

単語や文法の理解といった知識の習得だけでなく、相手の意図に応じた会話や、英語を使って積極的にコミュニケーションを図る姿勢なども合わせて育成しています。



▲ALT(外国語指導助手)と連携した授業。幼稚園や保育園にも配置

**【聞く・話す・読む・書く】**

「英語に親しむ」→「英語を身につける」→「英語を活用する」  
 小学校就学前から中学校まで、各段階に対応した英語教育を展開。「楽しい英語」から「楽しみながら『使える英語』」へ



▲市内小学生を対象としたイングリッシュキャンプ(7月)



▲深谷小学校で行われたクリスマスイベント(12月)

**【体験活動・海外の学校との国際交流】**

英語体験活動や、オンラインも含めた海外の学校との国際交流  
 英語による体験活動・国際交流を通して、コミュニケーション能力の向上と定着、シビックプライドの醸成を図ります。



▲10月に行われた聖ラファエル・カトリック・スクール(オーストラリア)との国際交流

**英語特区の推進と  
英語教育の充実**

■「英語特区」と本市の目標

文部科学省では、学校の特色を生かして特別の教育課程を編成し、教育を実施する学校を「教育課程特例校」として指定しており、指定を受けた学校や地域を「特区」と呼びます。本市は令和3年度より特区の指定を受け、市内全小中学校において夢や志をかなえる力の育成を進めています。

本市の英語教育の目標は、①子どもたちが他国の文化を学び、ふるさと白石について紹介できる力を育成し「シビックプライド(まちへの誇りと愛着)」を育むこと、②英語を用いて自分の思いや考えを伝える発信力を高め、相手の思いや考えを理解できる実践的なコミュニケーションの能力を育むことの2点です。

小学校3年生から中学校3年生までは基本的に全国の学校でも「外国語活動」「外国語」の授業を実施しています。英語特区の本市では、コミュニケーションを高め

◎学校管理課 ☎22-1342

る時間として小学校1、2年生は年間12時間、中学1、2年生は年間17時間の「しろいしイングリッシュ(S・E)」を新設しました。このほか、幼稚園にも年間20時間にわたってALT(外国語指導助手)を配置するなど、発達段階に合わせた学習内容を編成し、幼・小・中の学びの連続性を意識した学習を進めています。

■「英語特区」の取り組み

現在、本市では、①小学校英語専科教員3名の配置、②ALT6名の配置、③海外の学校との国際交流事業、④英語検定試験への補助といった「学びを支える環境づくり」に取り組んでいます。

これからの社会をより良く生きていくために、相手意識や目的意識を持ってコミュニケーションの楽しさを学んでいくことが大切です。子どもたちが様々な人たちが自分の思いや考えを伝え合うことができるよう、今後も英語特区の取り組みを推進していきます。



白石第二小学校  
佐々木 美穂 先生

本市の英語教育はとても充実しており、4年生までに英語に親しみ、楽しさを感じられるカリキュラムになっています。5・6年生では、指導者同士のSmall Talkを聞かせ、児童自ら「今日の英語表現」に気付くことを大切に、また、英語を話す場面を積極的に取り入れ、「英語で発信する力」を伸ばしています。英語に興味を持った児童生徒が、英検半額補助を利用できるのも本市の魅力です。



白石中学校  
大宮 葉子 先生

小学校の充実した英語学習環境で、英語に慣れ親しみ、英語を用いる楽しさを経験しているため、中学生になっても英語の授業に意欲的に取り組む生徒が多いです。中学校では語彙や文法の理解を深めさせるとともに、海外の学校との交流やALTとの連携など、実際に英語を「話し、伝え合う」場面を多く取り入れています。英語を用いる機会がたくさんあり、充実した学習環境となっています。